

89. ブロイラーの盲腸に近接する血管腫

誌名	鶏病研究会報
ISSN	0285709X
巻/号	531
掲載ページ	p. 30
発行年月	2017年5月

89. ブロイラーの盲腸に近接する血管腫 (Hemangioma adjacent to cecum of broiler)

キーワード：ブロイラー，盲腸，血管腫

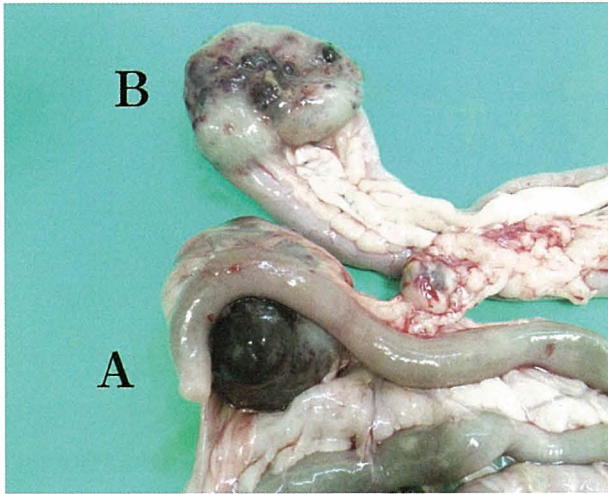


写真 1. 盲腸 (A) および十二指腸 (B) の暗赤色腫瘤。

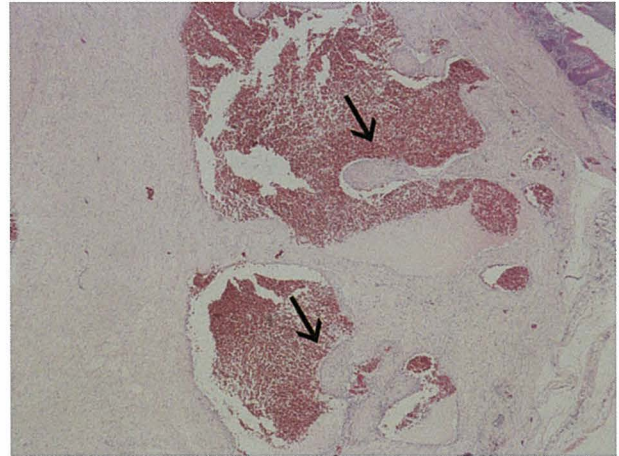


写真 2. 盲腸に近接する腫瘤。腫瘤は漿膜に存在し、膠原線維と血液を含み拡張した血管が増生していた。血管腔への乳頭状の内皮増生が認められた(矢印)。HE 染色。

動物：ブロイラー，チャンキー，雌，54日齢
発生状況および症状：2014年6月9日に大規模食鳥処理場で処理された同一ロット5,396羽中の1羽で，生体検査において異常は認められなかった。
肉眼所見：盲腸および十二指腸に直径2~3cm大の暗赤色腫瘤が1つずつ認められた(写真1)。腫瘤は漿膜面に隆起しており，正常組織との境界は明瞭であった。腫瘤剖面は淡桃色部分と暗赤色部分が混在し，充実性で硬結感を有していた。その他，内臓および体に著変は認められなかった。
組織所見：腫瘤は漿膜に存在し，正常組織との境界は明瞭であった。近接する腸管は粘膜筋板から筋層にかけて固有構造に乱れはなかった。また，炎症細胞は腫瘤辺縁部で一部認められたが，腫瘤中心部ではほとんど認められなかった。腫瘤では，膠原線維と拡張した血管が増生していた。血管は筋線維層が不明瞭で，血管腔への乳頭状の内皮増生が認められた(写真2)。血管内には赤血球と壊死した赤血球，血漿成分が充満し，血栓の形成も認められた。血管を内張りしている内皮細胞に異型性は認められなかった。

また，内皮細胞は抗人第Ⅷ因子関連抗原ウサギポリクローナル抗体(Dako)に対して陽性を示した。
解説：本症例は膠原線維の増生が著しかったことから，炎症に起因する肉芽組織の形成も疑った。しかし，近接する盲腸や十二指腸と腫瘤の連続性が認められず，炎症細胞もほとんど認められなかったことから否定した。また，増生している血管は筋線維層を欠き，著しい拡張と血管腔への乳頭状の内皮増生も認められた。以上より，本症例は腸管漿膜よりに単発性に発生した血管腫であると診断した。
 血管腫には多臓器に発生する多発性と単一臓器に発生する単発性のものがあり，組織学的には毛細血管腫と海綿状血管腫がある。本症例は海綿状血管腫である。
 鶏の血管腫は鶏白血病・肉腫群ウイルスによって引き起こされるとの報告があるが，本症例と同一ロットに同様の腫瘤を形成した個体は認められず，その原因の特定には至っていない。